

平成21年度極域科学専攻在学生アンケート集計結果

1. 趣旨

当専攻の教育課程等に関するアンケートを行い、学生の意見を聴取することで、当専攻の教育課程、教育研究環境等の改善に資することを目的とする。

2. アンケート実施方法

極域科学専攻生にアンケート用紙を個別配布（pdfファイルで配付）し、電子データで回収。

3. 回収率等

- (1) 在学生数 17人
- (2) 回答数 8人
- (3) 回答率 47%

4. 集計結果と個別分析

評価基準は各項目共通（自由記述部分を除く）で次のとおり。

「4：強く思う 3：そう思う 2：そう思わない 1：全くそう思わない」

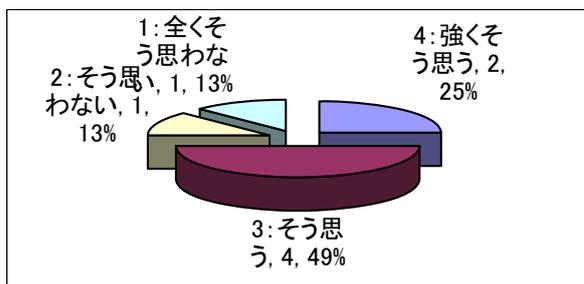
なお、無回答及び該当無しという回答については、集計の対象からは除外した。

コメントは回答結果をもとに事務局が原案を作成し、専攻長が校閲した。

(1) 研究指導について

1) 研究指導を複数の指導教員で行う複数指導体制は機能していると思うか。

4：2件 3：4件 2：1件 1：1件 【平均2.88】

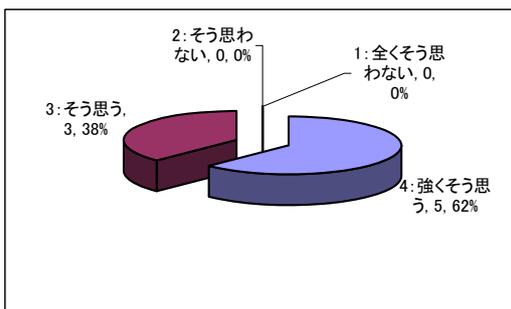


(コメント)

4と3をあわせて6件74%であり、まずまずの結果である。ただ、自由記述で、複数指導体制を止めて欲しいとの回答もあり、学生に対して何かしらの反応を示す必要があると思われる。

2) 指導教員は研究指導に十分な時間を割いていると思うか。

4 : 5件 3 : 3件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.63】

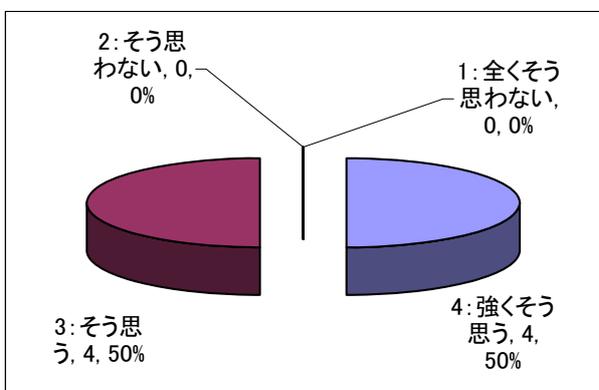


(コメント)

4と3をあわせて、8件100%であり、おおよそ十分な時間を割いて研究指導を行っているが見なされている。

3) 指導教員は学生の研究計画策定に関し適切な助言を行い、研究計画の実施に際しては適切に指導を行っていると思うか。

4 : 4件 3 : 4件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.50】

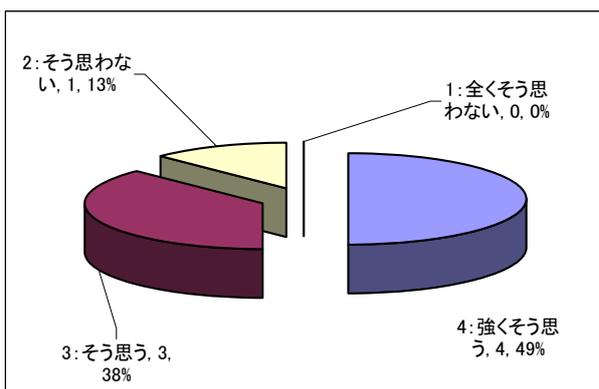


(コメント)

4と3をあわせて、8件100%を数え、ほぼ適切な助言及指導を行っていると言える。

4) 総合的に考えて研究指導に満足していると言えるか。

4 : 4件 3 : 3件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.38】



(コメント)

4と3をあわせて、7件87%を数え、ほぼ研究指導に満足していると言える。

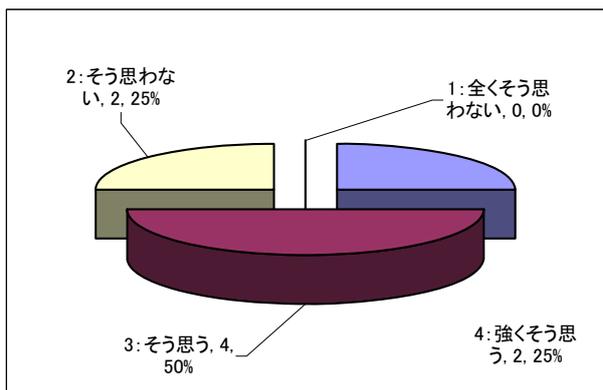
4-1) 言えない場合は、どのような点が満足と言えないのか、又どのような対応をすべきか記載して下さい。(自由記述)

・雑用を「指導」という名目にして押しつける一部の教員もいる。一部の教員に学生を指導する意識がないのではないか。複数人指導教員を選ぶことで余計な混乱が生じている。指導教員を必ず複数選ばなければならない現在のシステムは早急にやめていただきたい。

(2)教育課程(カリキュラム)について

1) 専攻で開講している専門科目は当該分野での学位取得に向けて必要な科目を網羅していると思うか。

4 : 2件 3 : 4件 2 : 2件 1 : 0件 【平均3.00】



(コメント)

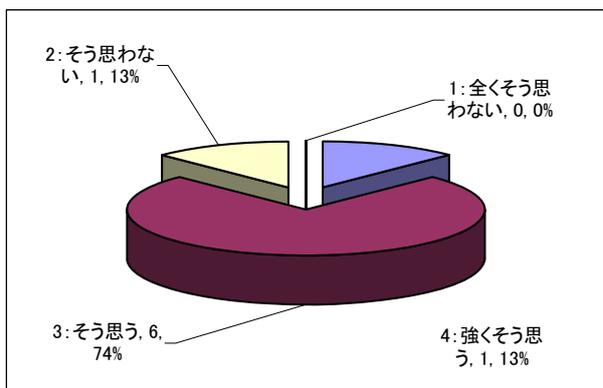
4と3をあわせて、6件75%であり、ほぼ網羅されていると考えられている。ただし、2の回答が2件もあり、検討する必要がある。

1-1) 思わない場合は、どのような授業科目が必要だと考えるか記載して下さい。(自由記述)

あまり極域に特化せず、各分野における一般的な授業科目や授業内容を受講できた方が学生にとっては有益だと思う。

2) 研究科で開講している研究科共通基礎科目は、研究科の共通基礎科目として適切な内容だと思うか。

4 : 1件 3 : 6件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.00】



(コメント)

4と3をあわせて、7件87%であるが、4の回答が少なく、平均点も3.0と低いため、複合科学研究科全体で共通基礎科目について検討する必要がある。

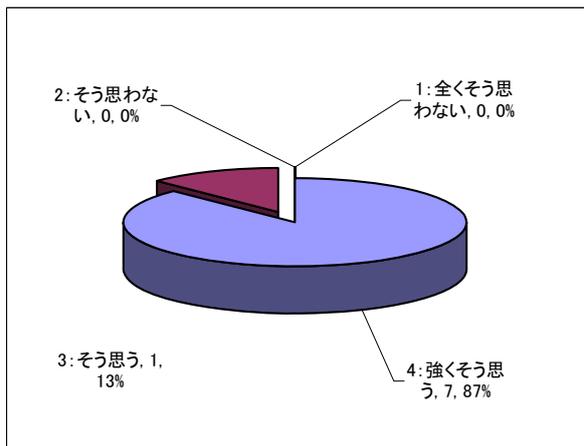
2-1) 思わない場合は、その理由を記載して下さい。また研究科共通基礎科目として開講すべきと考えられる授業があれば記載して下さい。(自由記述)

・もっと一般的な内容のほうがよいと思う。
・他専攻の教員が担当している授業が共通基礎科目にも関わらず、その専攻向けの内容だった。
・専攻をわたって複数人で担当する授業は、各専攻の教員同士で授業内容を相談し合って授業をつくって欲しい。どの教員が言っていることが一番適切なのか学生は判断できないため。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援等)について

1) 学生の居室のスペースは十分と思うか。

4 : 7件 3 : 1件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.88】

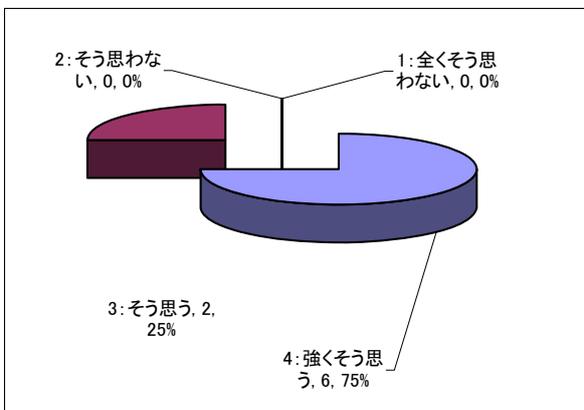


(コメント)

4と3あわせて、8件100%であり、ほぼ十分な居室スペースが確保されていると言える。

2) 学生が研究活動を実施する上で必要な機器等の設備は十分と思うか。

4 : 6件 3 : 2件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.75】



(コメント)

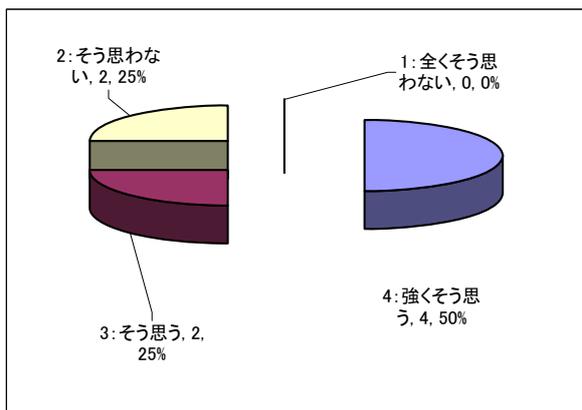
4と3あわせて、8件100%であり、ほぼ十分な研究設備が整っていると言える。

2-1) 十分でない場合、どのような機器が必要か。(自由記述)

・1-2年生用の学生部屋に外部から繋がる電話が必要。外部の業者や先生と直接コンタクトを取る必要がある。

3) 図書室の蔵書は十分と思うか。

4 : 4件 3 : 2件 2 : 2件 1 : 0件 【平均3.25】



(コメント)

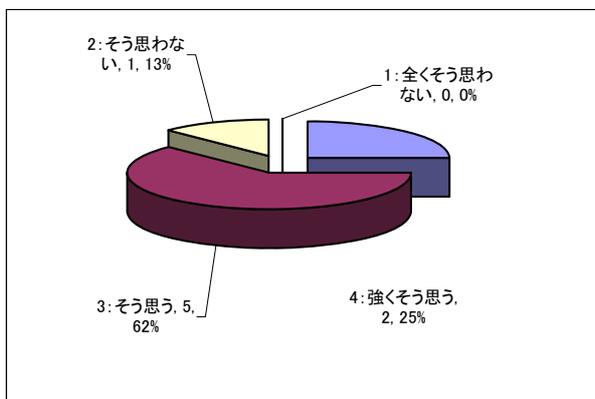
4と3あわせて8件75%であり、ほぼ蔵書が整っていると言える。ただし、極地関連以外の一般蔵書が少ないとの意見があったため、それについては検討する必要がある。

3-1) 十分でない場合、どのような蔵書が必要か。(自由記述)

・極地関連以外の一般蔵書が少ない

4) 利用できる電子ジャーナルの種類は十分と思うか。

4 : 2件 3 : 5件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.13】



(コメント)

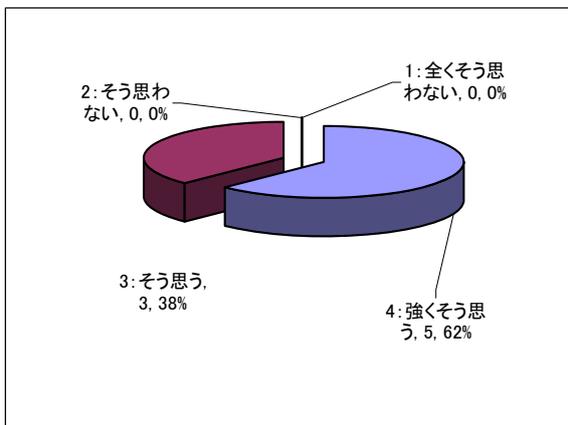
4と3あわせて、7件87%であり、ほぼ種類がそろっていると言えるが、要望もあったため、検討する必要がある。

4-1) 十分でない場合、どのような種類の電子ジャーナルが必要か。(自由記述)

・The American Naturalist
・The Journal of Experimental Biology
・The Royal Society
・過去のnatureの電子ジャーナル(頻繁に利用する冊子はそろっているのですが、あまり有名でない雑誌が利用できないので不便)
・PNAS、Photochem Photobiol、Royal Society系

5) 図書室その他の施設の利用はしやすいと思うか (利用時間、利用条件、利用手続き等の点から)

4 : 5件 3 : 3件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.63】



(コメント)

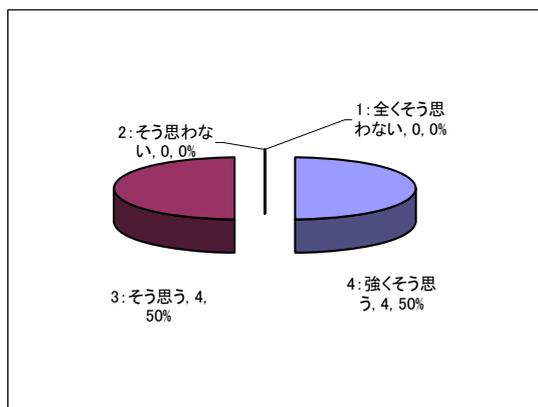
4と3あわせて、8件100%であり、利用しやすいと言える。

5-1) 利用がしづらい場合、どの施設がどのように利用しづらいか記載して下さい (自由記述)

特になし。

6) リサーチアシスタントは学生の研究能力向上に資するものとなっていると言えると思うか。

4 : 4件 3 : 4件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.50】



(コメント)

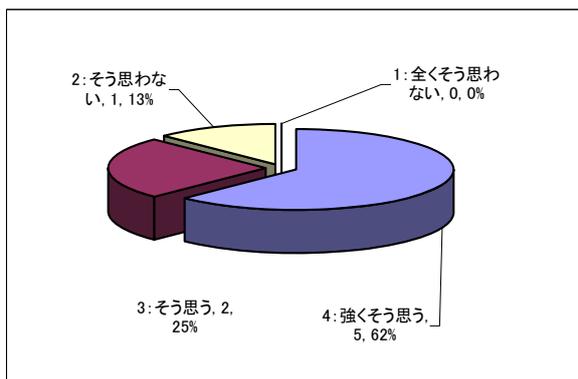
4と3あわせて、8件100%であり、RAが研究能力向上の観点から、おおよその学生にとって資するものになっていると言える。

6-1) 思わない場合、理由は何か。また、どのような対策が必要か。(自由記述)

特になし。

7) 学生の研究活動支援対策（学生支援経費による交通費、宿泊費の支援、旅行時の傷害保険に専攻として一括加入等）は十分と思うか。

4 : 5件 3 : 2件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.50】



(コメント)

4と3あわせて、7件87%であり、学生の研究活動支援対策は、十分な水準にあると言える。

7-1) 思わない場合は、どのような問題点があるか。また他にどのような支援が必要か。

・海外での宿泊に際し、単身だと現在の限度額では、不十分な地域がある。例) 北欧、オーストラリア都市部。海外に関し、宿泊費の上限が現行のレートに見合っていないため自己負担をもつ学生が多く見られた。エリア指定を細分化するなど対策の必要を感じる。

(4) その他(その他意見、要望等を自由に記述して下さい。)

研究指導に関して、教員のメンタルヘルスケアについての理解が欲しい。過去にカウンセリングを利用したことがあるが、指導教員側に受け入れてもらえるかは別話である。メンタルヘルスケアはカウンセラーに頼ればよいというのではなく、身近な理解があってこそ成り立つものだと思う。特に、現在の学生は博士論文を意識しながらも短期的な結果を求められますが、分野に関する知識も不十分な学生にとって、これは過度のストレスになっています。これを円滑に行うためにも、教員側にメンタルヘルスケアに関する共通した見解、及び対処を持って頂きたいと思います。

5. 各項目におけるまとめ

(1) 研究指導について<項目(1)－1)～4)>

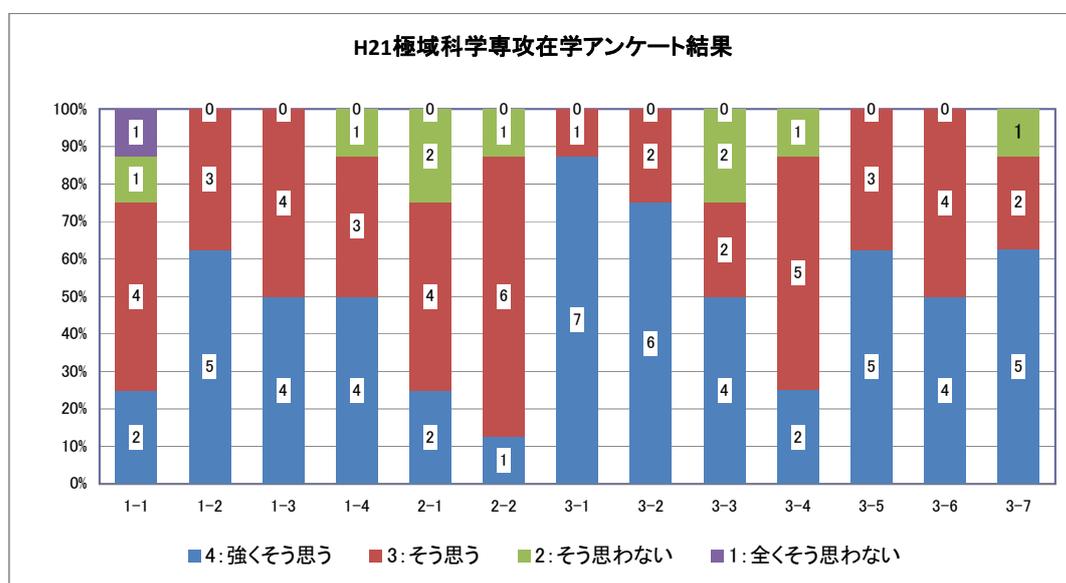
今回のアンケートの結果、最も結果が悪かった項目が、(1)－1)複数指導体制についての項目であった。学生にとってはまだ十分に機能しているとは思われていない。また、自由記述からも、学生が必要でないと感じていることが分かる。主任指導教員と学生の間に問題が生じた場合等、主任指導教員以外の指導教員の果たす役割は重要である。主任指導教員による研究指導の量と質については、2)及び3)の項目からほぼ十分な水準にあると言える。また、総合的に考えた場合の満足度についても、ほぼ十分な水準にあることがわかる。

(2) 教育課程(カリキュラム)について<項目(2)－1)～2)>

(2)－1)及び2)について、否定的な回答が多い。自由記述からも、共通基礎科目について、一般的な科目を望んでいる学生がいることが分かる。今後、複合科学研究科全体でカリキュラム編成を検討する必要がある。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援)について<項目(3)－1)～7)>

(3)－3)及び4)について、否定的な回答が多い。学生の希望に沿えるよう、電子ジャーナルや蔵書の購入について、検討する必要がある。



6. 今後の対応

平成22年度についても同様のアンケートを実施し、評価及び年度ごとの比較を行う予定。
今回の調査結果については、専攻委員会及び学生へ回付し、極域科学専攻HPに掲載する。